

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷十三第

行發日一月二年五和昭

論叢

國稅地租の課稅標準

法學博士 神戸 正雄

國際價格の理論

文學博士 高田 保馬

經營學論

經濟學博士 小島昌太郎

說苑

チュルゴーの『富の形式と分配』

法學士 山口正太郎

明治政府の貸附金

經濟學士 吉川 秀造

講演

大都市及其附近に於ける交通機關に就いて

法學士 種田 虎雄

雜錄

ドイツに於ける合理化運動の機關

經濟學士 谷口 吉彦

フランスに於ける庶民銀行に就て

經濟學士 松岡 孝兒

米國に於ける生命保險信託に就て

經濟學士 和賀賢治郎

近江愛知郡志を讀みて

經濟學士 菅野和太郎

近着外國經濟雜誌主要論題

經營學の意義

小島 昌太郎

- 一、廣義の經營學と各個の經營學
- 二、現實的各個經營學と假定的各個經營學
- 三、經營に於ける意思性の經營學への反映
- 四、經營學に於ける歴史的対象の闡明
- 五、經營學の科學性

一 廣義の經營學と各個の經營學

廣く、經營學といふときは、私は、これを、人類が、一つの指導意思の下に於て、計畫的行動として、物的資料の獲得使用をなすことに對して役立つ所の知識が、整理配列せられたる體系である¹⁾と、解すべきものと思ふ。

今日、獨逸に於て、Betriebslehre 若しくは Betriebswirtschaftslehre といふ名の下に盛んに論述せらるゝものは、——そして、我國に於ても、最近、盛に輸入せられて紹介せられつゝある所の

1) 本誌、前號所載「經營學の本質」参照。

經營學若しくは經營經濟學なるものは、——右に述べたる意味の經營學に對していへば、狹義の經營學、若しくは各個の經營學——若し獨逸語にて言ひ表はす必要があるならば Einzel Betriebslehre からやむべからぬもの——の一つに當るものである。何となれば、それは、單に企業 (Unternehmung) の經營 (Betrieb) に役立つ所の知識の體系を作らんとするものであるから——。

企業の經營といふものも、勿論、人類が一つの指導意思の下に於て、物的資料の獲得使用をなす所の計畫的行動である。故に、これに役立つ知識の體系を、經營學といふに何の不思議もない。併し、それと同じ意味に於て、企業以外に於ても、人間が、一つの指導意思の下に於て、物的資料の獲得使用をなす所の計畫的行動なるものは、他に幾多これある所である。かゝる計畫的行動に對して役立つ所の知識の體系も、亦成立するものとせば、それも均しく經營學といつて何の差支ある所もなき筈である。

例へば、國家若しくは政府が、その國民の富を増殖せんがために指導し統制する所の計畫的行動、政府が、政務の遂行に要する物的資料を調達支辨する所の計畫的行動、各家族がその成員の生活を維持するがために、物的資料を獲得使用する所の計畫的行動、學生が、學資を調達し若しくは貰ひ受けて、これを以て勉學のために要する物的資料を獲得使用する所の計畫的行動、その他かくの如き、人間の物的生活の相は、尙ほ各種の形態に於て示現する所であるが、そのいづれ

のものに於ても、これを企業なるもの、場合に比べて見て、人類が、一つの指導意思の下に於て物的資料の獲得使用をなす所の計畫的行動たるの本質に於ては、何等の差異を認むることが出来ないものである。

故に、企業の場合に於て、かくの如きを經營といひ得るならば、その意味を何等變更することなく、そのままに於て、右のいづれの場合に於ても、それらを經營といふに何の不思議もない譯である。またそれ故に、企業の經營に於て、經營學なるものが成立し得るとすれば、右のいづれの場合に於ける經營に於ても、また均しく、それぞれ經營學が成り立つものといふの外はない。

かくの如く、經營には、幾多の形態がある。一つの指導意思の下に統制せらるゝ物的生活のある所、そこに必ず一つの經營を認むることが出来る。そして、それらの經營は、いづれも、各自の個性をもつ。一つの指導意思は、その經營に一つの個性を賦與する。既に、それぞれの經營には、いづれもその個性がある以上、或る一つの經營に於ける目的を達成するに最も適する所のもの、それに最も役立つ所の知識は、また必ず他の經營に於けるものと異らざるを得ない。一つの經營に最も多く適し、最もよく役立つだけ、それだけ他の經營に對しては、適すること少く、役立つこと薄きものとなるは當然のことである。故に、經營學が或る一つの經營に最もよく役立つ所の構成をとる限り、それは他の經營には、それと同等の程度に於ては、役立つものではない。

て、他の經營に對しては、自らまたそれに最もよく役立つ所の構成に於ける知識の體系があるべきである。故に、各々の經營には、それに役立つ所のそれぞれの經營學があるべき筈である。それが、即ち、各個の經營學である。

各個の經營學といふものは、右に述ぶるが如く、各々の經營について一つづつ成立し得るものである。従つて、若しその數を問題とするならば、實に無數に存在し得る。各々の個性を異にする所の經營が、この世の中には、無數に存在するからである。我日本に於て、國富の増進といふ指導意思の目ざす所を達成するがためにとるべき最適最良の方策は、英吉利に於けるそれ、亞米利加に於けるそれ、佛蘭西に於けるそれ、獨逸に於けるそれ、などとは自ら異らざるを得ないのであり、従つてその方策を定むる所の、並びにそれを實行するに役立つ所の、知識も、それぞれ異り、その構成の體系も亦異なるの外なきものである。それ故に、日本國に於ける國富増進を目標とする經營學は、英國、米國、佛國、獨國などに於ける同じ目標をもつ經營學と、各々異なる所あるは當然のことである。

それと同様に、京都に於てバス事業を行ふ會社の經營に最も適し最も役立つ知識の體系と、大阪に於て、同じくバス事業を行ふ會社の經營に最も適し最も役立つ知識の體系とは、單に營業の

地盤が京都と大阪と異なるといふことだけから見ても、自ら異なるものでなければならぬ。更に同じ土地の大阪に於ても、二つのバス會社がある場合には、縦ひそれらが同じ路線に於て事業を營んで居るにしても、資本系統が異り、株主たる人間が異り、事業統帥の首腦者の性格が異なる限り、その營業政策も亦同一ではあり得ないのであるから、この營業政策の、即ち指導意思の目ざす所を實現するに必要な、そしてそれに役立つ所の知識も同一であり得ない。従つて、そのそれぞれ經營學も亦異なる筈である。まして、一方が會社企業であり、他方が市營企業である場合には、その相異點も更に大となる譯である。

或は、かくの如き、一會社について、一つの學問が成立つといふことに疑問をもつ人があるかも知れない。併し、日本には、日本の國體に關する學問があり、日本の憲法に關する學問があり、また日本の國富増進に關する學問があるといふことを認むることが出來、そしてそれらは、英吉利や、亞米利加や、佛蘭西や、獨逸などのそれらとは又自ら別な學問であることを承認し得るならば、この疑問は自ら氷解する筈である。一つの會社の繁榮を計るに必要であり役立つ所の知識の體系と、一つの國家の國富増進を計るに必要であり役立つ所の知識の體系とは、量に於ての差はあるにしても、質に於ては何等の差異のあらう筈はないからである。

二 現實的各個經營學と假定的各個經營學

各個の經營學といふものは、右に述ぶるが如く、一つの經營に於ては、一つ成り立つものである。そして、右に例示したる所は、具體的の指導意思に即した所の、即ちその目的の實現に直接役立つ所の、經營學である。併し各個の經營學は、も少し一般的な形態に於ても成り立つことが出来る。即ち、各地のバス會社には、それぞれその會社の經營學があるのであり、それらは詳細の點に於ては、一々同じくない知識から構成せられて居るものであるが、併し、それらを全體として眺むるときは、或程度までの同一性があつて、そして、それは、また他の事業、例へば電車事業を營む各會社の經營學を全體として眺めたときに認め得る所の、その同一性と異なる所がある。これは電車事業の側から言つても同一である。故に、そこに、バス事業經營學、電車事業經營學なる、幾分一般性を帯びた各個の經營學が成立し得ることとなる。

更に、これらのバス事業の經營學や、電車事業の經營學や、その他鐵道事業の經營學、航空事業の經營學、海運事業の經營學などを、全體として眺めて見ると、そこにまた、或程度までの同一性が認められるのであつて、そして、これを他の産業に關する各個の經營學に對比して、交通事業經營學なるものが成り立つのである。これは、また、他の産業の側から言つても同じことで

ある。

かくて、各々の經營に於て、それぞれの經營學があると共に、その種類を同じくするものを、それぞれの階段に於て段落をつけるときは、産業に關するものとしては、その最高の階段にある所のものとして商業經營學、工業經營學、農業經營學、鑛業經營學、水産業經營學、交通業經營學、金融業經營學、保險業經營學、倉庫業經營學、娛樂業經營學、等、等が成立し得るであらう。また、それらを横に、企業といふ觀點を以て、一貫して眺むるときは、企業經營學なるものが成立し得るのであつて、それはまた企業の種類に従ひ、會社企業經營學、組合企業經營學、公營企業經營學、官營企業經營學、等、等も成立し得る譯である。

併し、經營學なるものは、かくの如きものにのみ限局せらるべき、何等學問上の理由はない。吾々は、また、その各家庭に關する一々の經營學をもち得ると共に、それらが、或程度の同一性をもつ範圍内に於て、 *Haushaltungsbetriebslehre* といひ得るであらう所の家事經營學なるもの、成立を認むることが出来る。更に、國家が、その政務の遂行のために要する物的資料の獲得使用に關して必要とする知識の體系は、從來、財政學 (*Finanzwissenschaft; Science of Public Finance*) といはれて居るもの、一部分をなすものであるが、それも、實質に於て、經營學に外ならぬもの

で、若し獨逸語で言ひ表はすならば、Finanzbetriebslehreといふものであらう。これらが、一つの指導意思の統制の下に、物的資料の獲得使用をなすに關聯して必要とする所の知識の體系たる點に於ては、前述の各産業部門に於ける企業に於て、その指導意思、——その場合には營業政策といはるゝ所の指導意思——に統制せらるゝ物的資料の獲得使用に關して必要な知識の體系と異なる所はない。

更に、經營なるものは、右に述べたる所のものに於てのみ認めらるゝものとは限らない。その他の方面にも經營はある。即ち、國家は、産業の各方面について、その隆盛を計り、その健全なる發達を助長せんとする所の指導意思を以て、各種の産業に従事するものをして、それぞれ、その産業に應じて一定の範圍内に於て一定の作爲及び不作爲の義務を負擔せしめやうとする。この場合の國家の行動は、いはゆる産業法制(Industrial Legislation)または、經濟法(Wirtschaftsrecht)を以てする統治(Government; Herrschaft)に外ならぬことであり、そのとる所の方法は、經濟政策といはるゝものである。そして、この經濟政策には、金融政策、關稅政策、取引所政策、保險政策、銀行政策、交通政策、工業政策、等、等、があるが、これらは、即ち、その各産業方面に對する國家の指導意思の發顯である。國家は、この各種の經濟政策に於て發顯する所の指導意思を以て、比較的輕微なる程度であるけれども、その國民の物的資料の獲得使用を統制して居る。

この場合に、國民が、その物的資料の獲得使用に關して、國家の指導意思の發顯たる各種の經濟政策の下に統制せられて居る所のその相を見れば、そこにも亦、明かに一つの經營が存在することを認め得るのである。

そして、かゝる國民生活の經營は、これを如何に行ふべきであるかは、その各種の産業部門についてのいはゆる經濟政策の内容をなすものである。然るに、この經濟政策の内容を如何に定むべきであるか、即ち如何なる經濟政策をとるべきであるかについては、各種の方面の種々なる知識を必要とするのであつて、その知識の體系は、從來、各種の産業についての經濟政策學といはれたものであるが、これも上述の意味に於て、明かに一つの經營學に外ならぬものである。

右に述べたる各種の經營學、即ち、甲某家經營學、乙某家經營學——甲地Aバス會社經營學、甲地Bバス會社經營學、甲地市營バス經營學、乙地バス會社經營學、——バス事業經營學、電車事業經營學、鐵道事業經營學、航空事業經營學、海運事業經營學、——交通業經營學、商業經營學、工業經營學、農業經營學、鑛業經營學、水産業經營學、金融業經營學、保險業經營學、倉庫業經營學、娯樂業經營學、——會社企業經營學、組合企業經營學、公營企業經營學、官營企業經營學、——家事經營學、産業經營學、企業經營學、財政經營學、經濟政策學、國民生活經營學な

どは、前にも述べたるが如く、私は、獨逸語にて言ひ表せば Einzel Betriebslehre、即ち各個の經營學、若しくは、個別經營學と名づくべきものと思ふ。勿論、各個の經營學なるものは、私がこゝに列挙したるものを以て盡きて居るのではない。こゝに舉げたるものは、私の今までの説明のうち例として現はれたるものを、單に反復したに過ぎないものであつて、また、この列挙は必ずしも正確なる分類的意味のものでもない。

かくの如く、各個の經營學なるものは、右に列挙したるが如き所を以てしては、九牛の一毛だに及ばないものであつて、實に幾多無數の形態を以て成立し得るものである。そしてかくの如くに幾多の形態に於て成立し得るといふことが、實に、經營學の經營學たる本質である。何となれば、各個の經營學なるものは、前に詳細に論述したるが如く、人間の物的生活に於ける經營に役立たしめんがために構成せらるゝ學問であつて、そしてこの經營なるものは、物的生活に於ける人間の具體的目的の如何により、實に大小廣狹、千變萬化その形態に限りなきものであるからである。

各個の經營學は、右の如く、幾多の形態に於て成立し得るものではあるが、これは更に二つに大別し得るものである。即ち、その各個の經營學が、それ自らを役立たしめんとする所の具體的

1) 本誌、前號所載、「經營學の本質」參照。

目的が、現實なるものと、假定的なるもの、とによる分類である。前に例示的列擧をしたるものうち、甲某家經營學、乙某家經營學、A會社經營學、B會社經營學といふが如きもの、または、甲國財政經營學、乙市財政經營學、丙國金融政策學、丁國國民生活經營學の如きものは、即ち、現實的各個經營學である。これに對して、家事經營學、商業經營學、企業經營學、產業經營學、財政經營學、經濟政策學、國民生活經營學の如きものは、假說的各個經營學である。

何となれば、前者は、現實に存在する所の或經營に於て、實在の指導意思の目的とする所を達成するに必要な知識の體系であり、後者は、同種の經營に多少廣く共通する範圍内に於て、幾分か一般化したる目的、即ち假定的に想定したる指導意思の目的となる所を達成するに必要と認めらるる知識の體系であるからである。今日、實世間に於て、各家庭、各商店、各工場、各會社、各組合、各團體、各市、各國に於ける、その經營に日々役立ちつゝある所のものは、現實的各個經營學であり、學校、講習會等に於て教授せらるゝもの、經驗家が説述し學者が論著する所のものは、假定的各個經營學である。

各個の經營學なるものが、如何なるものであるかは、右に述ぶる所によりて明かであらうと思ふ。これらの各個の經營學を總稱したるときに、單にこれを經營學、若しくは廣義の經營學とい

ふ。故に、各個の經營學は、この廣義の經營學に對しては、また、これを狹義の經營學といふことが出来る。併し、廣義の經營學、若しくは、單に經營學といふときは、廣義に於て科學といひ、若しくは單に科學といふと同じ言ひ方である。科學にも、數學、物理學、化學、生物學、地質學、星學、經濟學、法律學等の各個の科學があるが如く、經營學にも、前述の如き各個の經營學がある譯である。併し、經營學と科學とは、前に詳論したるが如く、その學問としての性質を異にするものであるから、廣義の科學と狹義の科學との關係は、必ずしも全面的に、廣義の經營學と狹義の經營學との關係を説明するの比喩として役立つものではない。

單に經營學といふときは、右の如く、各個の經營學の總稱たるに過ぎないものである。故に、單に經營學といふ名辭の下に於ては、換言せば、廣義の經營學といふものには、一定の内容があるものではない。この點は、單に科學といはるときに、それに一定の内容がないのと同様である。内容をもつ所のものは、現實的の若しくは假定的の各個經營學だけである。若し、單に經營學といはるとき、即ち廣義の經營學に何等かの内容を認めんとすれば、それは、この意味を尋ねることに外ならぬのであつて、即ち、各個の經營學なるものは、多數にあるが、それらを、全體として一つの學問として見たるとき、如何なるものであるか、といふことの説明たるに過ぎないものである。故に、一定の内容をもつて現實に成立して居るものは、前述の如く、現實的の

1) 本誌前號

若しくは假定的の各個經營學であり、そのうち、學校等に於て教授せられ、世間に論著として行はるゝものは假定的各個經營學の多少一般的なるものである。

三 經營に於ける意思性の經營學への反映

經營學が如何なる學問であるかといふことは、右に述べたる所を以て、略ぼ、これを明かになし得たことと思ふ。即ち、私は、この學問が如何なるものであるかといふ問に對して、これを、簡單に説明せんと欲する場合には、かう答へやうと思ふ。經營學といふは、人類が、一つの指導意思の下に於て、計畫的行動として、物的資料の獲得使用をなすことに對し、これに役立つ所の知識の整理配列せられたる體系であると。更に、一層簡單に答へる場合には、經營學とは經營に役立つ學問であるといはうと思ふのである。

かゝる意味に於ける經營學は科學ではなくして、實學である。即ち、或る事象の眞實を闡明する所の學問ではなくして、人間の或る具體的目的に役立つがために構成せられたる學問である。私は、經營學なるものをかくの如きものと見る。併し乍ら、こゝに更に一考すべきことは、經營學なるものが、一つの實學としてではなく、一つの科學としては成立し得ないか、といふことである。即ち、經營といふ事象が如何なるものであるかといふ、その眞實を闡明する所の學問とし

て成立し得ないか、といふことである。

この點については、既に論及したる所であるが、こゝに更に詳しくこれを考察して見やう。それについては、先づ經營といふものゝ意味を明かにし、且つ經營なるものは、その如何なる意味に於ても、意思性のものなることを明かにして置かねばならぬ。經營の意味については、既に私は、これを經濟と對比して略説したのであつて、この經濟と對比したる意味の經營とは、人類が一つの指導意思の下に於て、物的資料の獲得使用をなす所の計畫的行動である、といふのである。併し、經營といふことは、この指導意思といふことを、或特殊のものに限界することによつて、これよりも狭い意味に解することが出来る。その場合に於ては、上述のものは、即ち廣義の經營といはるべきものとなる。

人類の物的資料の獲得使用に關する指導意思といふものを、或特殊のものに限界する場合に、幾多のものとなつて現はれ得る。例へば、それが、國民の各種産業に於ける行動に關するものであるときは、この指導意思は、即ち各種の産業政策といはるゝことになる。それが、國家の政務に要する物的資料の獲得使用に關するものであるときは、財政々策といはるゝことになる。それが、一家族の生活維持に要する物的資料の獲得使用に關するものであるときは、家計政策といはるゝものとなる。更にそれが、會社その他の企業に於ける營利目的を達するための物的資料

1) 本誌前號

2) 本誌前號

の獲得使用に關するものであるときは、營業政策といはるゝものとなる。これらは、たゞ、その例示たるに止まるもので、指導意思なるものは、その他、如何様にも限界を付け得るものであり、それに従つて、廣義の經營に對する狹義の經營が幾様にも認め得るものである。

今日、獨逸に於ける經營學者の目安を置く所は、もとより廣義の經營ではなくして、狹義の經營であり、而も、主として、株式會社といふ企業に於けるそれである。この意味に於ける經營とは如何なるものであるか。私は、それを、一つの營業政策の下に於ける事業行動である、と解する。併し、これは、その動態に於ける意義である。その靜態に着目すれば、私は、更に、それを、一つの營業政策の下に於ける事業組織である、といひ得ると思ふ。獨逸に於ける經營學者が目標とする經營には、この動態的意義のものと、この靜態的意義のものとがあるを認め得る。

私がこゝに狹義の經營として述ぶる所を、前に廣義の經營として説明したるものに對比するに、廣義に於て、指導意思といふものは、この狹義に於ては、いふまでもなく、營業政策であり、物的資料の獲得使用といふことは、事業といふうちに包含せられ、計畫的行動といふことは、事業といふものが計畫的のものなることを當然に意味するものであるから、事業行動といふときは、それが計畫的行動なるの意味を當然もつこととなる。

併し、この狹義の經營といふことは、たゞに、これをその動態について認識し得るばかりでは

なく、この動態としての經營が表現的に形作りつゝある所の、その形式の全面に着眼して、これを認識することも出来る。然る場合に認め得るものが靜態的意義に於ける經營である。そして、計畫的に行はるゝ事業行動の表現により形作くらるゝ形式は、その行動が計畫的なるものであるがため、當然に一つの組織となつて表現する。故に、私は、靜態的意義に於ける經營を以て、事業組織と見るのである。

獨逸の學者が企業の經營といふ場合の、そのいはゆる經營は、動態的意義若しくは、靜態的意義に於ける狹義の經營のことであつて、私は、それを、上述の如く、一つの營業政策の下にある事業行動若しくは事業組織と解せんと欲するものである。勿論、獨逸の學者達が、言葉を以て云ひ表はして居る所は、かくの如き表現になつて居ない。そして、もとより、彼等の説明は、詳細なる點に於ては區々たる所がある。併し、Betrieb といふことを以て、人間が物的資料を獲得使用する所の意思的行動であると見るの點、即ち經營なるものが意思性のものであることを認むる點に於ては、皆その意見の一致する所である。

例へば、Nickisch 2554、

Betrieb ist der Mensch auf seinem Arbeitsplatze, ausgerüstet mit Werkzeugen, Stoffen und tätig, um d'e Zwecke

zu verwirklichen, die er sich zur Befriedigung seiner Bedürfnisse gesetzt hat; Betrieb sind eine Anzahl Menschen in einer Werkstatt, ausgerüstet mit Maschinen, Werkzeugen, Stoffen, die den Zweck ihrer Tätigkeit gemeinschaftlich zu verwirklichen suchen. Auch Gruppen solcher Werkstattgemeinschaften sind Betrieb, wenn ihr Hauptzweck derselbe ist und ihre Tätigkeit ihn gemeinschaftlich verwirklichen soll. Unter gleichen Voraussetzungen sind auch Gruppen solcher Gruppen Betrieb.¹⁾

もつとの、Nicklisch が、この Betrieb ist der Mensch auf seinem Arbeitsplatz 並びに Betrieb sind eine Anzahl Menschen in einer Werkstatt といふのは、これをその文字通りに解して、經營とは作業場若しくは工場に於ける人間そのものをいふのではない。むしろ、或目的の下に人間が作業場なり工場なりに於て秩序を保つて働いて居るものと解さなければならぬ。それは、彼が、um die Zwecke zu verwirklichen, die er sich zur Befriedigung seiner Bedürfnisse gesetzt hat といふ、die den Zweck ihrer Tätigkeit gemeinschaftlich zu verwirklichen suchen といふ、また wenn ihr Hauptzweck derselbe ist und ihre Tätigkeit ihn gemeinschaftlich verwirklichen soll といふ説明を附加して居ることに、重點を置いてこれを解すれば明かであらう。然ることは、その意味は、要するに、人間が生産の目的を以てなす物的資料の獲得使用に關する計畫的行動といふことになり、經營なるものが、意思性のものを指示することは明かである。

Mellerowicz は、簡單に、Betrieb und Unternehmung gehören verschiedenen Sphären an: der

1) Nicklisch; Wirtschaftliche Betriebslehre, 6 Aufl., S. 36.

Betrieb der Technik, die Unternehmung der Wirtschaft. ¹⁾ Betrieb の Unternehmung の關係を説く²⁾ として Betrieb ist planmässige, organisierte Werkverrichtung. Der Betrieb, als Ort des Betriebs, ist Werkstätte. ³⁾ の説明して居る。これは、前述の Nicklisch の説明に於ては、Betrieb の概念に人間を甚だ重きを置いて居るのに比べると、この Mellerowicz の説明は、場所⁴⁾に重きを置いて居る。即ち、これは、經營なるものを餘りに技術的なものと見過ぎたからであらう。併し、これも、「計畫的」組織的作業であるといふ點と關聯して、その眞意を把握すれば、やはりそのいふ所の經營は、物的資料の獲得使用といふ技術的行動といふ人間の意思活動を指すとすることは明かである。

Passow は、各個の經營、即ち經營の個性といふものは、これを統制する所の各個の意思、目的の個性、によりて識別すべきものなることを論述して居るから、この説明によつて、經營なるものが、意思性のものである⁵⁾を、明らかにして居る譯である。即ち曰ふ。

Wodurch ist nun die Einheitlichkeit des Betriebes gegeben, wann liegt ein einheitlicher Betrieb vor? Nicht erforderlich ist, dass die fragliche Tätigkeit sich immer an derselben Stelle vollzieht. Es kann durchaus sein——man denke nur an einen Wanderzirkus——, dass sie sich bald hier, bald dort abspielt.

Entscheidend dafür, dass ein einheitlicher Betrieb vorliegt, ist vielmehr, dass die Tätigkeit einer einheitlichen Leitung untersteht, einem einheitlichen Zwecke dient.

1) Konrad Mellerowicz, Allgemeine Betriebswirtschaftslehre der Unternehmung, (Berlin u. Leipzig 1929) S. 7.
 2) a. a. O., S. 5.

Eine einheitliche Leitung, ein einheitliches Kommando muss gegeben sein, um von einem Betrieb zu sprechen.
Der Betrieb ist eine organisatorische Einheit.....¹⁾

Dagegen bildet, weil eine einheitliche Betriebsleitung fehlt, keinen einheitlichen Betrieb die Tätigkeit eines Verlegers und der von ihm beschäftigten Hausindustriellen.²⁾

.....

Zur Einheitlichkeit der Betriebsleitung gehört auch die einheitliche Zielsetzung, der einheitliche Zweck, für den ein Betrieb geführt wird. Jemand kann kurz hintereinander für seinen Haushalt und sein Erwerbsgeschäft, ferner als Kassenwart eines Vereins, als Vorwand für ein Mündel tätig sein. Der Zweck, dem er mit seiner Tätigkeit dient, ist dann jedesmal ein anderer. Nur die dem gleichen Zwecke dienenden Handlungen bilden je für sich eine Einheit. Ebenso kann ein Angestellter, Arbeiter oder Dienstbote von demselben Arbeitgeber bald für die Zwecke seines Erwerbsetriebes, bald für den Haushalt beschäftigt werden. In dem einen Fall ist er ein Glied des Erwerbsetriebes, im anderen ein Glied des Haushaltes.³⁾

かくの如く、經營といふものは、人間の意思の統制の下にあるものである。その意味に於て、これを意思性のものであるといふことが出来るものであるから、かゝる經營に於て、發現し、發展する所の事象が如何なるものであるかを闡明する所の研究にも、動もすれば、この意思性が反映するを免れ得ない。假に、經營學を以て、經營に於て發現し、發展する所の事象を闡明する學問であると見るにしても、それに、この意思性が反映して居るときは、かゝる學問は、その研究

1) Passow, Betrieb, Unternehmung, Konzern, (Jena 1925), S. 3.

2) a. a. O., S. 5.

3) a. a. O., S. 7.

方法が科學的なるものであつても、科學としては重要視せらるべき意義なきものとなる。何となれば、かくの如きは、單に、經營者の意思解釋たるに過ぎないからである。

經營に於て發現し、發展する所の各事象——私は、假に、これを經營事象と名づける——が如何なるものであるかの研究に、上述の如き、經營なるものに固有なる意思性が反映する場合は、これを二つに分つて見ることが出来る。その一つは、かゝる事象の發現と發展を以て、その經營に於ける主體たる人間の意思行動と見る點より、その事象が、その人間の如何なる考へによりて惹起されたか、といふ意味の研究となつた場合である。さういふ研究は、經營事象の闡明といふべきものではなくして、單に、經營者の意思解釋に外ならぬものである。經營學は、かくの如きを職能とするものでないことは明であらう。また、假に、經營學なるものが、かくの如きものであると、そして、その意思解釋が科學的方法によるものとしても、それは、科學としても、何等重要視さるべき意義をもたない。

經營事象の研究に、經營なるものに固有なる意思性が反映する第二の場合としては、經營事象の闡明といふことが、經營者の立場より、その事象が彼に對して何を意味するか、といふことを見んとする研究となつた場合である。併し、かくの如きは、當該經營事象が、その經營者たるものに對してもつ價値を測定せんとすることに外ならぬ。従つて、それは、經營者の目的を推定し

て初めて可能なる所であつて、結局、これも亦、第一の場合と同じく、經營者の意思解釋に外ならぬこととなる。

四 經營學に於ける歴史的事象の闡明

經營事象の闡明といふことも、それが如何に科學的方法を以て行はるゝにしても、經營なるもの意思性はその研究の上に反映するときは、結局、經營者の意思解釋に外ならざることとなり、經營學そのもの、職能外に落つることとなるのみならず、かくの如きを一つの科學と見るも、何等重要な意義をもたないものとなる。

然らば、科學としての經營學が行ふべき經營事象の闡明とは、如何なることであるべきか。或は、かくの如き事象の闡明の例として、舉示せらるゝものを見るに、一つの企業が、新製品の販路開拓のためにとりたる方法と、他の企業のそれとを比較して、いづれが實效多かつたかといふ研究や、または、同一種類の産業に於て、多數の企業が存在する場合に、それらの投下せる固定資本と流動資本との割合より見て、如何なる割合に於ける資本の投下が、最もその事業の經營に適するか、を見んとする研究の如きものがある。

かくの如きは、なるほど、經營事象の闡明たるには相違ないけれども、かくの如き既往の事

象、そして、それが更に將來にも反復繼起するや否やについては、右の、事象の眞實を闡明することゝは離れて、更に證明を要する所の事象、即ち、歴史的事象なるもの、闡明は、それが科學的方法を以て行はるゝときは、正に歴史學 (Geschichtswissenschaft) の領域に屬する所であり、かくの如き研究において獲得せらるゝ知識は歴史的知識である。従つて、經營學がかくの如き研究をするとするれば、吾々は、また、何故に、經營學が、かくの如き知識を必要とするかを尋ねなければならぬ。それは、勿論、知識それ自身の獲得のためではなく、かくの如き歴史的知識を經營そのものに役立たしめんがためである。それ故に、經營學が、かくる知識をその構成のうちにもつといふことは、それが科學たることを意味するのではなくして、寧ろ明かに、實學たることを意味するに外ならない。

私は、この點については、Pigou がその著 *The Economics of Welfare*¹⁾ に引用したる Macaulay の次の言葉を更に借用することによつて、經營學が、何故に、右の如き販賣方法や投下資本の割合に關する知識をもつものなるかの意味を、讀者に傳へ得るものと思ふ。Macaulay は云ふ、
"No past event has any intrinsic importance. The knowledge of it is valuable, only as it leads us to form just calculations with regard to the future. A history which does not serve this purpose, though it may be filled with battles, treaties and commotions, is as useless as the

1) Pigou, *The Economics of Welfare*; 3rd. Edition, p. 4.

五 經營學の科學性

假に經營學を科學として見て、それに於て經營事象を闡明するといふは、然らば、更に如何なることをいふか。そは、勿論、單純なる經營者の意思解釋ではなく、また經營事象の經營者に對する價值測定でもなく、經營に關する歴史的事象の闡明でもなく、要するに、第三者的立場より、經營事象を廻上に上せて、これをそれがもつ所の各面に解剖して、その部面毎に、その眞實を明かにすることである。併し乍ら、その場合に於ては、經營なるものに固有なる意思性を、その研究の上に反映せしむるのではなく、従つて、その各部面の一つとして經營的方面なるものをとり上げるのではない。若し、經營的方面を見やうとするのであるならば、それは、前に述べたる所の單純なる經營者の意思解釋、若しくは、經營事象の經營者に對る價值の測定たるに外ならぬからである。従つて、經營事象がもつ所の各面に解剖して、その部面毎に、その眞實を明かにするといふことは、結局、各種科學に分屬する所の研究となる。

嘗て述べたるが如く、今日にあつては、如何なる經營も經濟のうちに包被せられて居る。¹⁾ 従つて、その經營事象が、一つの經營と他の經營との關係に於て發現し發展するものであるならば、

1) 本誌前號

それは當然、交換原則の支配外にあり能はざるものであるから、それは經濟的性質をもつ。また、他方に於て、經營相互の關係は、更に法的支配の下にあるものであるから、それは同時に法的原则の支配外にあり能はざるものであり、この點に於て法的性質をもつ。更に、經營内部に於て發現し發展する所の經營事象も、經營それ自體が、今日にありては、孤立的に存在するのではなく、多數の經營との關聯に於て存在するものであるから、その外部關係に於て常に起る所の法的若しくは經濟的の效果が、内部的事象の上に何等かの反映を與ふるは免れざる所である。更に、内部的經營事象が、いはゆる技術的のものなるときは、物理的、化學的、數的性質をもつは、言ふまでもない。その他、經營事象には尙ほ幾多の性質を擧げることが出来るであらう。經營事象を解剖して、それがもつ所の各部分の性質に基き、その眞實を闡明することは、それ故に、結局、經濟學、法律學、物理學、化學、數學、等、等の各種科學の研究對象として之を取扱ふことになる。

經營事象の眞實を明かにするがため、これを經濟學、法律學、物理學、化學、數學、等、等の諸科學の研究對象として取扱ふ場合にありても、これを鑑定的意味に於て對象とする場合と、これらの諸科學それ自身を構成する新らたなる知識を獲得せんがために、これを對象とする場合とによりて、その學問としての性質を異にするものである。即ち、鑑定的意味に於て、これを對象

とする場合にあつては、そこには諸科學の應用があるだけである。それによつて、そこには、これら諸科學の一部門が成り立つ譯のものではない。故に、若し、經營學なるものが、單に、經營事象の何たるかを、鑑定的意味を以て、闡明せんとするものであるならば、それは、その鑑定せんとする部面の如何によりて、何等かの科學の應用をなすに過ぎないものであつて、鑑定學といふこと以外には、特別の學問たる意味をもたないこととなる。

併し、若し、經營學なるものを以て、經營事象の眞實を闡明することにより、新らたなる科學知識を獲得するを目的とするものであるといふならば、その闡明せんとする部面の如何により、その獲得せらるゝ知識は、經濟學、法律學、物理學、化學、數學、等、等のいづれかの科學を構成する知識に外ならぬのである。従つて、かゝることを目的とする學問は、この場合、特に經營學といふ名稱を與へても差支はないけれども、それは決して特別の學問ではなく、實に、經濟學、法律學、物理學、化學、數學、等、等の一部分たるに過ぎないものである。従つて、その意味に於ける經營學は、獨立の一科學たるものではない。

或は、經營事象に、經濟的部面、法律的部面、物理的部面、化學的部面、數的部面、等、等があるとするれば、その等々といふものゝうちに、經營的部面なるものも亦存在するのではないか、従つて、その部面の眞實を經營の立場より闡明することが、科學としての經營學ではないか、と

いふ疑問があるかも知れない。併し、それは、不可能の疑問である。經營事象には、その一部面として經營的部面なるものをもつのではなく、經營的部面といふことをいへば、それは、經營事象の全部を包被する部面である。そして、經營といふことは、前に詳述したるが如く、一つの意思活動であるから、經營の立場といふことは、經營者の立場といふこと、全く同一であつて、この經營者の立場から、經營事象を見るといふことは、前にも繰返し述べたるが如く、結局、經營者の意思解釋に外ならぬことで、これを特別の學問と見ても、何等重要な意味をもつといふことは出来ない。

かくの如く、經營學を以て經營事象の眞實を闡明する所の科學であるとの見解の下に於ては、——經營事象といふものは、經濟事象、法的事象、物理事象、化學事象、數的事象など、いふものと異つて、一部分的のものではなく、多部面的のものであるがため、——その經營學は、經濟學の一部分といふ意味も成り立ち、法律學の一部分といふ意味も成り立ち、物理學、化學、數學等々の一部分であるといふ意味も成り立つこととなり、結局、頗る曖昧なる意味のものとなる。

私は、今日、盛に論述せらるゝ經營學なるものは、かゝる意味に於けるものではなく、交換原則に支配せらるゝものとしての經營の、即ち經濟に包被せらるゝものとしての經營の、内部及び

外部に發現し發展する事象の——従つて、それは經營事象とはいふもの、同時にまた經濟事象である所のもの、——眞實を闡明せんとする學問といふ意味のものが、若しくは、かゝる意味の經營に役立つ所の學問といふ意味か、そのいづれかであると思ふ。この二つの意味のどちらに於ても、經營學なるものは成立の可能をもつは疑ひはない。併し、前の意味のものなるときは、それは經濟學の一部門たるものであり、後の意味のものなるときは、實學としての經營學である。そして、私は最近、獨逸に行はるゝ經營學には、この二つの傾向があり、或るものは、全くこの二つを混同し、或るものは經濟學の一部門としての傾向を多くとり、或るものは實學としての傾向を多くとること認むるのであるが、併し、かゝる學問が、特に戦後の獨逸に於て喚び起された事情より見て、經濟學的傾向をとるものは、やがて、經濟學そのものに吸取せられ、實學的傾向をとるものが、次第にその傾向を鮮明にして、發達する機運にあるものと思ふ。

——五、一、九——